

おおとり

- ◇浮世伊之助 中村芝翫 ……………①
- ◇真実の世界のお話（25）……………②
- ◇古事記を読む（2）……………③
- ◇お知らせ ……………④

三代豊国作 役者絵「浮世伊之助 中村芝翫」

◆◆ 浅草 鷲神社社務所



秋

2007
平成19年
No.40

鳥居くぐって開運招福・例祭 西の市・11/11（日）11/23（金）

真実の世界のお話 (25)

見えるもの見えないもの

葉室 頼昭

現在は理屈ばかりをいわれています。けれど何でも杓子定規に理屈で割り切ろうとすると矛盾が出てくるし、それを理屈に合わせようとするから、世の中がおかしくなってくるのです。よく、神様を信じるとか信じないとか言ったり、見えるものだけを信じるといふ人がいますが、これも間違っています。

◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇

人間の目は、可視光線のごく限られた波長しか感じることが出来ません。けれど、見えない紫外線で日焼けをするし、赤外線で体を温める医療機器もあります。こういうものが宇宙にはいくらでもあるのです。

夜空を見上げると遠くに光る星が見える。それは仮に地球からの距離が十億光年だとしましょう。すると星は、一秒間に地球を七廻り半するほどの光の速度で十億年もかかるほど遠方において耀いているわけです。するとちょうど今、むこうの星が爆発したとしても、光は十億年かからないと地球には届かないので、我々は十億年もその星が存在して輝いていると思って見てしまうのです。我々は星を見ているんだけど、その元の星はなく、見えていても存在しないのです。また宇宙では光っている星だけが我々に見えているのです。ずっと遠くの宇宙から見たら、太陽は見えても地球は光っていないから見る事が出来ません。光っていない名もなき星は宇宙にごまんとなつても見ることは出来ない、しかし存在しているのです。

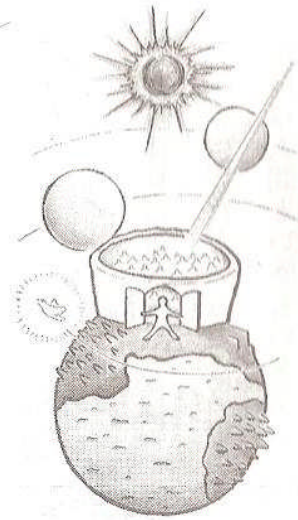
琉球八社探訪 (8)

金武宮

金武宮は、沖縄県の中郡、金武町の観音寺の境内の鍾乳洞内に鎮座している。

その創建年代は、「琉球国由来記」によると、「按開基、(欠)封尚清聖主御宇、嘉靖年中、日域比丘日秀上人」と記されている。これは、尚清の時代(1527～55年)、嘉靖年間に僧日秀により、金武の洞窟内に小祠が建てられたことをあらわしている。

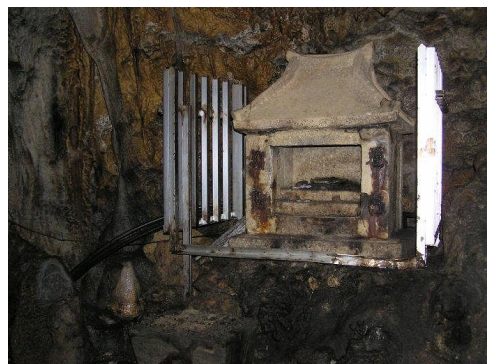
この日秀は、本土出身の真言宗の僧侶で、高野山に入り修行を修め、補陀落(ほだらく)浄土を目指して小船に乗り込んだところ、琉球にたどり着いたと言われている。日秀は金武の地を観音の浄土として、金武宮を創建した。創建からのしばらくの間は当時の資料



◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇

そう考えると、目に見えるから存在するというのもウソだし、見えないから存在しないというのもウソということになるのです。つまり、見えるものは信じるが、見えないものは信じないという理屈が、いかに真実を現していないか、ということに気が付かないといけません。宇宙には、人間の作った理屈の通じないことがいっぱいあるのです。

人間は多くの知識を得たために、自分の力でなんでも出来るとうぬぼれ、勝手な事をし、地球の自然を破壊しています。理屈なんて捨てて、神様の本当の世界を見なければ、人はさらにむちゃくちゃな間違いを犯すかもしれません。今こそ、見えない神様の偉大さを知らないと、とんでもない事になると思うのです。



洞窟内の小祠

にすら名前が出てこないほどであったが、薩摩の琉球侵攻により、真言宗系の寺院を境内に持つ神社が、重

視されるようになると、金武宮は琉球八社のひとつとして数えられるようになった。しかしながら、他の七社とは異なり地上に拝殿等の設備はなく、鍾乳洞内に権現堂が設置されているのみであったため、官社としての待遇はうけてはいなかった。

祭神は、熊野三神を祀っている。熊野の信仰と琉球の信仰は多くの共通点があるので、本土の神が受容されやすい環境があったといえる。

明治政府による琉球処分により、金武宮は一旦、村社へと引き戻されることとなったが、氏子組織等の未

整備のために、無格社とされた。

大東亜戦争の沖縄戦により県内各地の神社は大きな損害を受けた。しかしながら金武宮は洞窟内に鎮座する、という特殊な条件下にあったため社殿の消失などはおきず、現在も観音寺の維持管理の下、多くの参拝者が訪れています。

ここまで、全八回により琉球八社各社を紹介してきました。あまりなじみのない沖縄の神社に少しでも興味を持っていただけたのならば、大変うれしく思います。

流しました。次に生まれた子は、淡島。この子もまた子の仲間には入れなかった。

古事記を読む (2)

伊邪那岐命と伊邪那美命の結婚

その島に天から降りてきて、天の御柱を建て、立派な御殿をお造りになりました。そこで、伊邪那岐命は伊邪那美命に「お前の体はどうなっているのか？」とお尋ねになったところ、伊邪那美命は「私の体には一箇所足りない部分があります」とお答えになりました。そこで、伊邪那岐命は「私の体には、一箇所余っているところがあるので、私の余ったところをあなたの足りないところに指し塞いで、国を生もうと思うがどうだろうか」と言いました。伊邪那美命は「それがいいでしょう」と言いました。そこで伊邪那岐命は「それならば、私とあなたで天の御柱を回って出会い、男女の交接をしよう」と言いました。このように約束し「お前は右から、わたしは左から回って出会おう」と言って、約束どおりお回りになった時に、伊邪那美命が先に「ああ、なんていい男なんだろう」と言い、後に伊邪那岐命が「ああ、なんていい女なんだ」と言い終えた後、伊邪那岐命は、伊邪那美命に「女が先に言うのは良くない」と告げました。



しかしながらも交接を交わして生まれた子は、ヒルコ(くずの子)だったので、この子は葦の船に入れて、

大八島国の生成

そこで、伊邪那岐命と伊邪那美命は相談して「いま、私たちが生んだ子は良くない。もう一度天つ神にご意見を戴こう」と言って、すぐに二人で天つ神のところに行き、意向をお尋ねになりました。天つ神が太占(ふとまに)で占いをしたところ、「女が先に言うのは良くないので、再び帰って言い直しなさい」とおっしゃりました。

そこで戻って、先程と同様に回ってから、今度は先に、伊邪那岐命が「ああ、なんていい女なんだろう」と言い、後に伊邪那美命が「ああ、なんていい男なんだろう」と言いました。そのように言って交接した後、生まれた子は、淡路の穂の狭別島(淡路島)。次に伊豫の二名島(四国)を生みました。この島は体が一つで顔が四つあり、顔ごとに名前がありました。伊予国は愛比賣(エヒメ)、讃岐国は飯依比古(イイヨリヒコ)、阿波国は大宜都比賣(オオゲツヒメ)、土佐国は建依別(タケヨリワケ)といます。次に、隠岐の三児の島を生みました。またの名を天之忍許呂別(アマノオシコロワケ)といます。次に筑紫島(九州)を生みました。この島も体が一つで顔が四つありました。筑紫国は白日別(シラヒワケ)、豊国は豊日別(トヨヒワケ)、肥国は建日向日豊久土比泥別(トヨクジヒネワケ)、熊曾国は建日別(タケヒワケ)といます。次に伊岐島(壱岐)を生みました。またの名を天比登都柱(アメヒトツバシラ)といます。次に津島(対馬)を生みました。またの名を天之狭手依比賣(アメノサデヨリヒメ)といます。次に佐渡の島を生みました。次に大倭豊秋津島(近畿)を生みました。またの名を天御虚空豊秋津別(アマツミソラトヨアキズネワケ)といます。これら八つの島々をまず先にお生みになったので、この国を大八島の国といます。(以下次号掲載)

◆ 新しのお守りの紹介

この度、当社では、本年酉の市から新しいお守りとして「ゴルフ守」と「寿鷲丸 福とりストラップ守」を授与いたします。

・ゴルフ守



大空に力強く羽ばたく鷲のように“高く遠くへ”

飛距離を伸ばして目指せイーグル！鷲！

ゴルフの技術向上、飛距離アップが祈願されています。

・寿鷲丸 福とりストラップ守



良い瑞祥を現した鳥として尊ばれている鷲。当社のキャラクターである寿鷲丸を御守ストラップとして奉製致しました。所願成就をお祈り下さい。

◆ 大熊手製作

まだまだ残暑の残る中、八月三十一日・九月十二日と、酉の市に向け、奉賛青年会の皆様により、大熊手の製作が行われました。

三十一日は生憎の雨の中、朝早くから各自担当の部品を持ち寄り、手際よく作業が進んで行きました。

そして、十二日には、大熊手の取付けが行われました。酉の市まで二ヶ月をきり、様々な準備が本格化してきました。



◆ 第三回鷲フォトコンテスト

作品募集

本年も鷲神社では、鷲フォトコンテストと称し、浅草鷲神社例大祭「酉の市」をテーマとした、写真コンテストを開催いたします。応募規定等は以下のとおりです。

浅草鷲神社例大祭「酉の市」
対象期間 平成十九年の酉の

市 十一月十一日(日)・二十三日(金)

作品サイズ 四つ切サイズ(30×25センチ) 印画紙に印刷の上ご応募下さい。

応募 切平成十九年十一月三十日(金) 必着

発表 十二月二十五日頃に鷲神社HP上で発表いたします。尚入賞者には直接ご連絡いたします。

展示 平成二十年一月一日～一月七日まで 鷲神社境内に展示いたします。

賞

特選	一点	金三万円
鷲神社賞	一点	金二万円
入選	三点	金一万円
佳作	数点	

オリジナル図書カード

注意事項

- ・ 作品は自作未発表のものに限ります。
- ・ 応募作品の返却は行なわず、その一切の権利は主催者側に帰属いたします。
- ・ 入選された方はネガ・ポジ・デジタルデータ等いずれかの提供義務を負います。
- ・ お一人何作品応募されても

かまいませんが、入賞はお一人一賞となります。

・ 入賞作品は鷲神社の出版物・印刷物に使用することがあります。

以上の点にご同意頂き、多くの方のご応募をお待ちしております。



本号の表紙

本号の表紙は、三代豊国(歌川国貞)の作品。幕末から明治期にかけての歌舞伎俳優である四代中村芝翫(天保元年～明治32年)が扮する「浮世伊之助」を描いた役者絵です。

芝翫の肩には、おかめに紙垂が付いた熊手が担がれ、当時の熊手の形を知ることができます。